

# インタビュー

## 暖タカタ本店オープン

～愛される店づくり目指す～



サロンドロワイヤル前内眞智子代表取締役

**質** 昨年7月にタカタ本店をオープンさせましたが、これまでを振り返っていかがですか。  
**答** タカタ本店では、地元から雇用した若者20人が働いてくれています。どの社員も本心に良くやってくれて助かっています。  
オープンしたばかりのころは、本社からスタッフがオンラインで指示することもありませんでしたが、いまでは何の心配もなく、地元の社員だけで店を運営するまでになっていきます。どの社員もモチベーション



ンが高く、「陸前高田のため」にとの誇りを持って頑張ってくれています。  
**質** ピーカンナッツプロジェクトについての考えは。  
**答** ピーカンナッツを活用しての農業再生と地方創生を目指し、これまでは国内で先頭を走ってきました。しかし、現在は他の地域に追い越されている面があると感じています。そもそも、このプロジェクトは滋賀県近江八幡市に平成27年にオープンした観光施設のラ・コリーナを参考に始めました。その名も「陸高版

ラ・コリーナ構想」です。滋賀のラ・コリーナは11.6ヘクタールという東京ドーム2.4個分もの広大な面積があります。その敷地には、さえぎるものがない豊かな緑が広がり、芝で覆われた屋根のメインショップには有名なバームクーヘンの洋菓子店をはじめ、カステラショップやカフェ、ギフトショップなどが併設されています。いまでは年間300万人以上の人が訪れるほどで、近隣の人気観光スポットとなっています。  
当初、「陸前高田市でもラ・コリーナのような豊かな自然景観を維持しながら魅力あるまちづくりの観光拠点を」との思いを抱きながらプロジェクトに参画しました。  
市内ではピーカンナッツの苗木が3.7ヘクタールの面積に植えられています。もう少し面積を増やすことができると願っているところで、植えられた苗木にはまだ結果が見られませんが、成功する可能性は十分あると期待しています。

**質** 今後のタカタ本店の目標は。  
**答** 店では食品安全マネジメントシステムに関する国際規格・ISO22000の取得を目指しています。これは消費者に安全な食品を提供することを目的としています。また、店の運営にあたっては、皆さんに助けていただかなければ成り立ちません。今後多くの方に愛され、訪れてもらうよう社員と共に頑張っていきたいと思っています。  
**質** 最後にPRを。  
**答** タカタ本店は「WELL OVE TAKATA! LOVE PECAN!」のキャッチフレーズのもと、定番のピーカンナッツチョコをはじめ、様々な商品を取り揃えています。サロンドロワイヤルとしては東北最大の店舗です。商品の中には、本市在住のアーティスト・田崎飛鳥さんが描いた絵画をパッケージデザインに取り扱っているものもありますので、ぜひご賞味下さい。

# No.5 追跡調査

## あの課題どうなった?

～ピーカンナッツプロジェクト～

東日本大震災から、12年5カ月を迎えようとしています。本市のこれまでの復興の歩みの中で、市民から市議会に寄せられた意見や要望といった諸課題について、追跡調査した内容を掲載します。今回はピーカンナッツプロジェクトについて、市担当者から話を聞きました。

**質** 本市は平成29年5月、東京大学と大阪市に本社のあるチヨコレイト菓子製造販売のサロンドロワイヤルと連携し、ピーカンナッツプロジェクトを立ち上げました。現在の進捗状況はいかがですか。  
**答** ピーカンナッツは北アメリカ原産のクルミ科の木の実で、ナッツ類の中でも収益性が高く、食感が良く高齢者でも食べやすいのが特徴です。抗酸化物質が高く、老化を防ぐアンチエイジング効果があるとされ、アメリカでは日常的に消費されています。通常、苗を植えてから実が成る

### 産学官連携で試験栽培中

「結実」までに6年から7年ほどかかるかとされています。市内では令和2年度から試験栽培をスタートさせ、本年度で4年目を迎えました。残念ながらもまだ結果が見られませんが、葉も伸びて順調に生育していることから、もう少し時間がかかるものと思っています。  
アメリカでは規模のメリットを生かし、広大な土地を活用して機械で収穫されています。ですが、本市ではこの地域に合った栽培方法を探っている段階です。  
**質** 本市で栽培する理由は。  
**答** 以前から、ピーカンナッツは菓子類に使われてきてはいるものの、国産物がありませんでした。健康にいいとして知られていたこともあり、市内の耕作放棄地などに植えてもらいながら地元でも消費し、市民の健康づくりに役立てられればと、プロジェクト

が気候に合うかなど、試験的に植えています。苗木を育てる研究は、ピーカン農業未来研究所(大林孝典代表理事)に委託しており、今後に期待しているところです。  
また、東京大学でも本市と同じ10種類の苗木を植えて栽培しており、様々なアドバイスを受けながら生育を見守っているところです。  
**質** 昨年春には高田町のかさ上げ地に隣接した浸水区域

クトをスタートさせました。栽培にあたっては労力コストも低いので、技術が確立されれば、広く普及させていきたいと考えています。  
**質** 現在、市内ではどれほどの面積に何本ほどの苗木が植えられているのでしょうか。  
**答** 市内に3カ所、合計3.7ヘクタールに約640本植えています。ピーカンナッツの種類も色々あり、市内では10種類の苗木を植え、どの種類

で植樹会を開き、多くの市民に苗木を植えてもらったところですが、生育はいかがですか。  
**答** 市民の協力を得て、高田町には約3.3ヘクタールの面積に550本の苗木を植えることができました。いまのところ、シカの被害といった被害は見られず、病害虫の影響も少なく順調に育っているところです。  
**質** プロジェクトの今後の展望についてはいかがですか。  
**答** いまだ苗木から結果が見られないのが残念なところですが、市民にはこれまでの成果を見せることができていると思いますが、このプロジェクトには関係者が夢をもって取り組んでいます。市内で収穫したピーカンナッツはサロンドロワイヤルに買っていただけのことになっていただけに、今後も産学官連携を図りながら一日も早く栽培技術を確立してもらい、将来的には市内への普及を目指していきたいと思っています。(担当・鶴浦昌也)